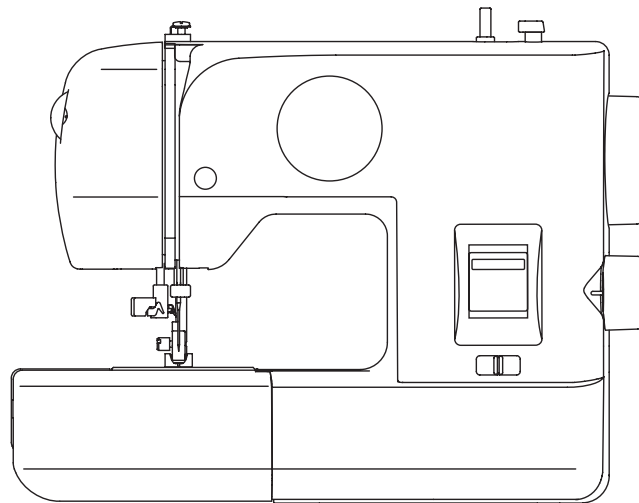




JAGUAR



取扱説明書

★ご使用前にこの『取扱説明書』を十分にお読みください。

★この『取扱説明書』は、お使いになるかたがいつでも見られるところに保管してください。

＝ 安全上の注意 ＝

◎ご使用の前に、この『安全上の注意』をよくお読みの上、正しくお使いください。

◎お読みになった後は、お使いになるかたがいつでも見られるところに保管してください。

【絵表示について】

絵表示の例



この『安全上の注意』では、使用者が製品を安全に使用出来るように、誤った取り扱いをすることによって生じる内容を次のような絵表示によって区分しています。いずれも重要な内容ですので必ず守ってください。



警告：取り扱いを誤った場合、人が死亡または重傷を負う危険が生じることが想定される内容を示しています。



注意：取り扱いを誤った場合、人がケガをしたり、物的損傷が発生したりする恐れがある内容を示しています。



記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容が示されています。



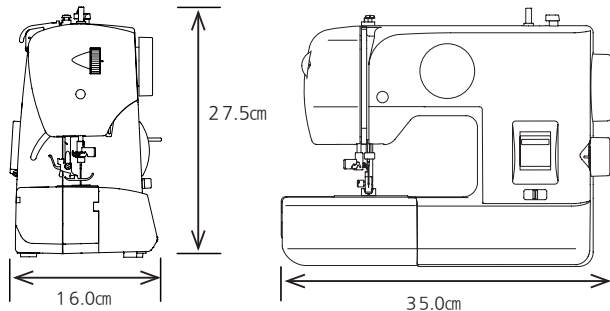
記号は使用者の行為に注意を呼びかける内容であることを告げるものです。

図の中に具体的な禁止内容が示されています。



記号は使用者の行為を指示強制したりする内容であることを告げるものです。

図の中に具体的な指示内容が示されています。



本体寸法：幅 35.0 × 奥行き 16.0 × 高さ 27.5 (cm)

本体質量：4.4 kg

定格電圧：AC 100V

定格消費電力：30 W

定格周波数：50/60 Hz

※ 製品のデザイン、仕様は改良のため予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

⚠️ 警告 感電、火災の恐れがあります

⚠ 注意

感電、火災、ケガの原因になります



禁止

ミシンには正規の部品（ボビン・針等）をご使用ください。



注意

お子様がご使用になるときやお子様の近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。



禁止

最初のひと針は、必ずプーリーを手で回し、布に針が刺さった状態から操作を始めてください。



禁止

以下のことをするときは、電源・スピード切替スイッチを“とまる”の位置にしてください。

- ・針を交換するとき
- ・上糸、下糸をセットするとき
- ・送り歯とかまの掃除をするとき



禁止

ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、プーリー、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。指が挟まる、針が刺さるなどのケガの原因になります。



禁止

曲がった針はご使用にならないでください。



禁止

ミシンを動かすときは、かまカバーを閉じてください。



禁止

縫うときは布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。指が挟まる、針が刺さるなどのケガの原因になります。



注意

業務用としてのご使用はお控えください。
過負荷による故障の原因になります。



禁止

お手入れの際、シンナーやベンジンで拭いたりしないでください。変質・破損・塗料はがれの恐れがあります。



禁止

ミシンに以下の異常があるときはすみやかに使用を停止し、お買い求めの販売店または販売元で点検・修理・調整をお受けください。

- ・正常に作動しないとき
- ・水にぬれたとき
- ・落下などにより破損したとき
- ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したり、異常に熱くなったとき
- ・異常な音やにおいがするとき



注意

最初にミシンを使用するときは、押えの下に布切れを置いて、糸を使用しないでミシンを操作し、十分に油気を取り除いてください。



注意

針及び針止めネジの下に指をいれないでください。
ケガをする恐れがあります。



注意

直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。

ミシンの使用温度は5～40℃です。ミシン内部の温度が上がったり、本体や電源コードの皮膜が溶けて火災・感電の原因となります。



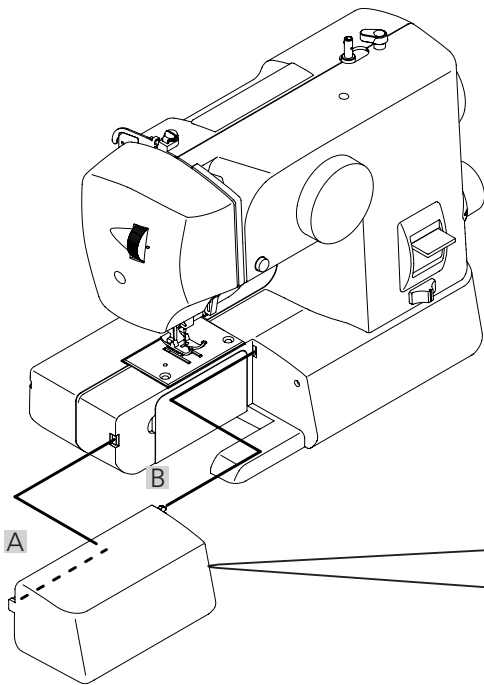
注意

ミシンの使用中に、電子レンジや掃除機などの大容量の電気製品のご使用はお控えください。

ミシンの動作が不正確になる場合があります。

付属品について

補助テーブルは左に引っ張ると外れます。
元に戻すときは、補助テーブルをミシンに沿って右
にすべらせながら、**A**、**B** を所定の位置に差し込
みます。



補助テーブルの中に付属品が入っています。
付属品がそろっているか、確認してください。



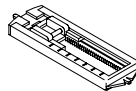
ボビン (3個)

下糸を巻いて使用します。
金属製のボビンを使用します。



ミシン針

単針 (普通地用) # 14 × 3本がセットで付属
しています。



ボタンホール 押え

ボタン穴かがりを行うときに使用します。



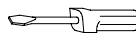
糸ごま押え

糸立て棒に糸ごまをセットするときに使用します。



糸ごまクッション (2個)

糸立て棒に糸ごまをセットするときに使用します。



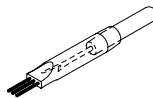
ネジ回し

針や押えの交換や下糸調子の調整を行うときに使用
します。



針板用ネジ回し

針板や針止めネジを外すときに使用します。



ブラシ付きシームリッパー

縫い目をほどこいたりボタン穴を切り開く際に使用しま
す。キャップ部分はブラシとして使用出来ます。

も く じ

安全上の注意
警 告
注 意
付属品について

1. はじめに

各部の名前	5
各部の働き	6

2. 縫う前の準備をしましょう

電源コードをつなぎましょう	7
下系の準備をしましょう	8
Ⅰ. ボビンのセット	8
Ⅱ. 糸ごまのセット	8
Ⅲ. 下系の巻きかた	9
Ⅳ. ボビンケースへの糸通し	10
Ⅴ. ボビンケースの取り付けかた	10
上糸をかけましょう	11
Ⅰ. 上糸をかける前に行ってください	11
Ⅱ. 上糸をかけます	11
Ⅲ. 自動糸通し器の使いかた	12
下糸を引き上げましょう	13
針と糸と布の使いかた	14
針の取りかえ	14
押えの取りかえ	15
上糸調子のとりかた	15

下糸調子のとりかた	16
筒状になった部分を縫うには	16

3. さあ縫ってみましょう

縫いにくい布地の縫いかた	17
直線縫い	18
返しぬい	19
縫い方向の変えかた	19
縫い目をまっすぐに縫うには	19
ジグザグ縫い	20
裁ち目がかり	20
アップリケ	20
点線ジグザグ縫い	21
裁ち目がかり	21
つくろい縫い	21
かくし縫い(ブラインドステッチ)	22
ボタンホール(ボタン穴かがり)	23
縫い始めのセット	23
縫いかた	23
芯糸入りボタンホール	24
ボタンホールの縫い目長さ調整	24

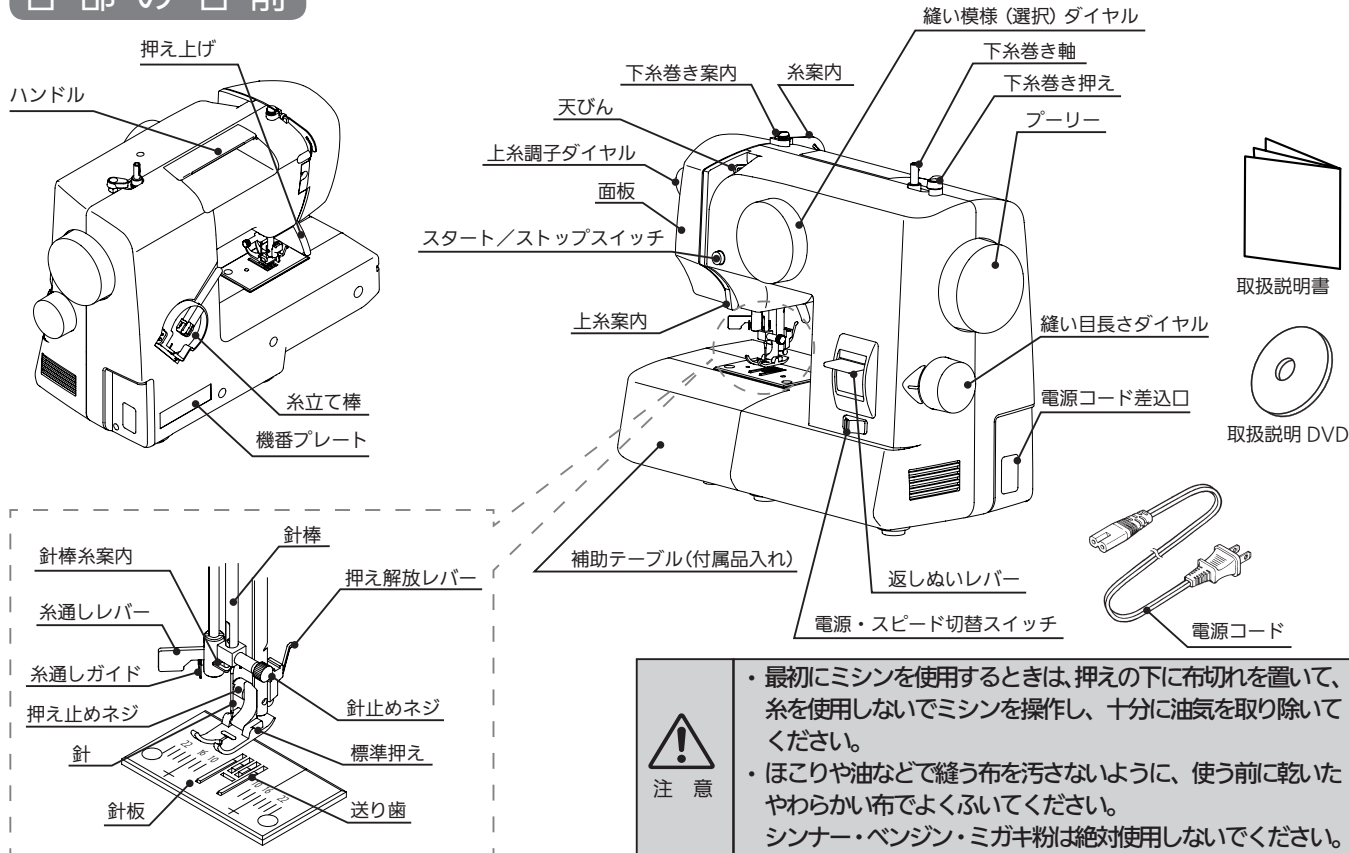
4. ミシンのお手入れ

送り歯とかまの掃除	25
-----------	----

5. ミシンの調子が悪いとき、次の原因を確かめましょう

26 ~ 27	
アフターサービス	28 ~ 29

各部の名前



注意

- ・最初にミシンを使用するときは、押えの下に布切れを置いて、糸を使用しないでミシンを操作し、十分に油気を取り除いてください。
- ・ほこりや油などで縫う布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよくふいてください。
- ・シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対使用しないでください。

各部の働き

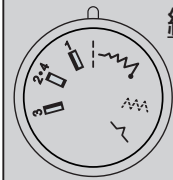
上糸調子ダイヤル



ダイヤルを回して上糸の調子を調節します。数字が大きくなるほど、上糸調子は強くなります。

お知らせ：通常は「5」の位置が適当です。

縫い模様(選択)ダイヤル

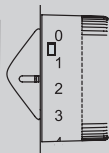


ダイヤルを回して、縫いたい模様に合わせてます。

ジグザグふり幅の選択

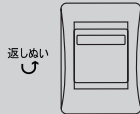
模様表示を ~\ の間で好みのジグザグふり幅に合わせます。

縫い目長さダイヤル



ダイヤルを回して、縫い目長さを調節します。縫い目は数字が大きくなれば長くなります。

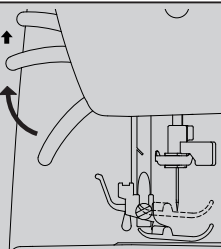
返しぬいレバー



レバーを下に押し下げている間、返しぬいが出来ます。

2段階 ↑

1段階 ↻



押え上げ

押え上げは2段階です。2段階目に上げるときは、押え上げを手で支えながら、さらに持ち上げます。

お知らせ：2段階目は上で固定されません。

スタート/ストップスイッチ

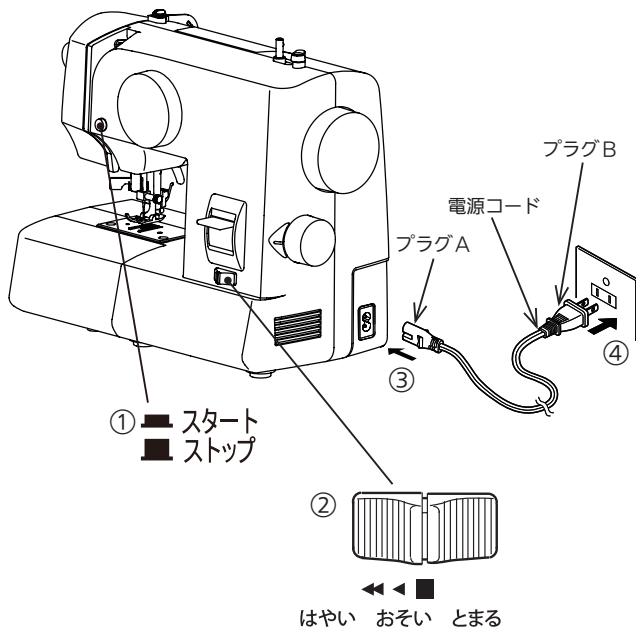
■ スタート 電源・スピード切替スイッチ
■ ストップ を「はやい」または「おそい」に入れた後、このスイッチを押し込むとミシンが動き出します。もう一度押すと押し込んだスイッチが、元の位置に戻りミシンが止まります。

電源・スピード切替スイッチ



ミシンの回転速度は、電源・スピード切替スイッチによって「はやい」「おそい」の2段階切替が出来ます。

電源コードをつなぎましょう



- ① スタート/ストップスイッチを「ストップ」の位置にしてください。
- ② 電源・スピード切替スイッチを「**■**」の位置にセットしてください。
- ③ 電源コードのプラグ A をミシンの電源コード差込口にしっかりと差し込みます。
- ④ もう一方のプラグ B を室内コンセントに差し込みます。(同時に照明ランプが点灯します。)



注意

- 電源・スピード切替スイッチを「**▲**」または「**▲**」の位置にしたまま電源コードをつなぐと、ミシンが急に動き出すことがあり危険です。必ず「**■**」の位置にセットしてください。
- スタート/ストップスイッチを「スタート」の位置にしたまま電源コードをつなぐとミシンが急に動き出すことがあり危険です。必ず「ストップ」の位置にしてください。
- ミシンを使用しないときは、必ず電源・スピード切替スイッチを「**■**」の位置にセットし、電源プラグを抜いてください。
- 電源コードは必ず付属の当社指定のものをご使用ください。
- 電源コード使用後は、乾いた布で付着したほこりや汚れをふき取ってください。

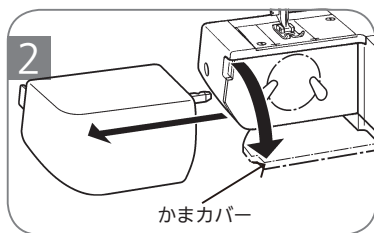
下糸の準備をしましょう

ここではボビンへの糸の巻きかたとセット方法を説明します。

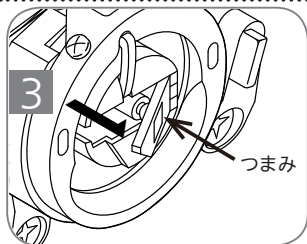
I. ボビンのセット



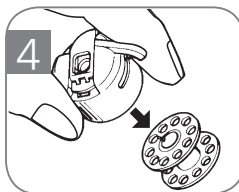
プーリーを手前に回して、針を最上点に上げてください。



補助テーブルを外し、かまカバーを開きます。

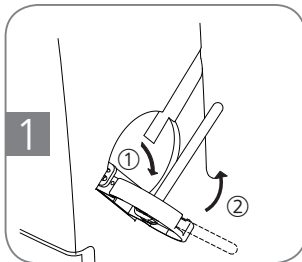


ボビンケースのつまみを起こし、ボビンケースを取り出してください。

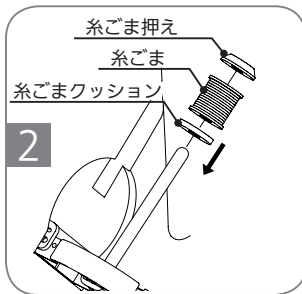


ボビンケースにボビンが入っているときは、つまみを閉じるとボビンが取り出せます。

II. 糸ごまのセット

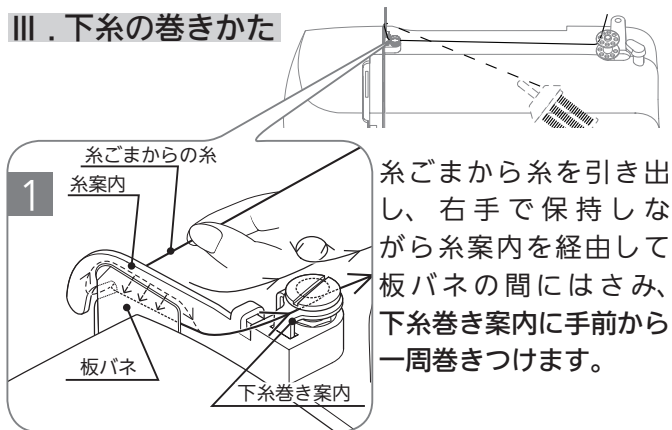


糸立て棒を①, ②の順に起こします。

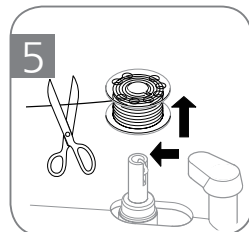
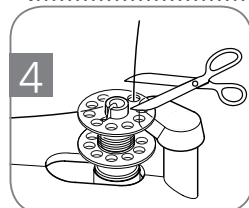
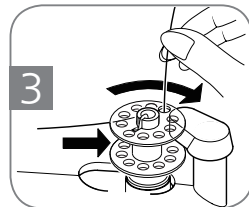
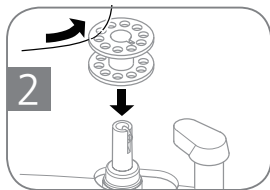


糸立て棒に糸ごまクッション、糸ごまの順で取り付け、最後に糸ごま押えで糸ごまがとび出さないように押えます。

III. 下糸の巻きかた

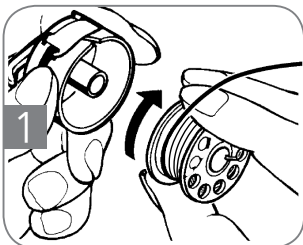


ヒント 下糸巻き案内に糸がきちんとかけられていないと正しく巻けません。

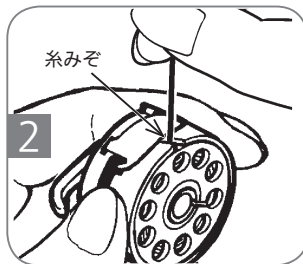


 注意	使用するボビンについて 右記の寸法の金属製ボビン を使用してください。 ※プラスチック製ボビンは 使用しないでください	<p>直径：20.5ミリ</p> <p>高さ：11.5ミリ</p> <p>材質：金属</p>

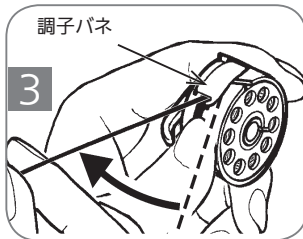
Ⅳ. ボビンケースへの糸通し



糸が右回りになるように、ボビンを持ってボビンケースに入れます。

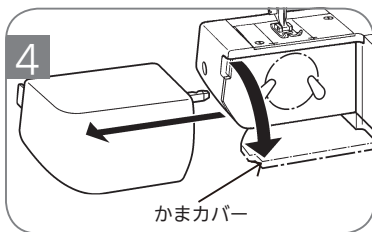


糸をボビンケースの糸みぞに入れます。

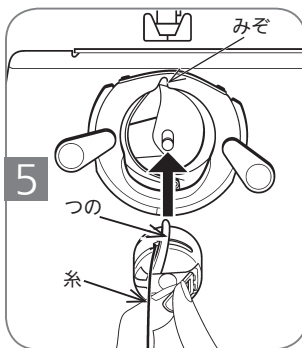


糸みぞから調子バネの下へ「カチッ」と音がするまで滑り込ませます。10cm ぐらい糸を引き出しておきます。

Ⅴ. ボビンケースの取り付けかた



補助テーブルを外し、かまカバーを開きます。



プーリーを手前に回し針を最上点まで上げます。“つの”を真上にして、つまみを持ち、“つの”をかまの“みぞ”にきちんとはめてセットしてください。



注意

“つの”と“みぞ”がずれていたり、しっかりと差し込んでいない場合は、ボビンケースが始動とともに、飛び出してしまいます。

上糸をかけましょう

Ⅰ. 上糸をかける前に行ってください

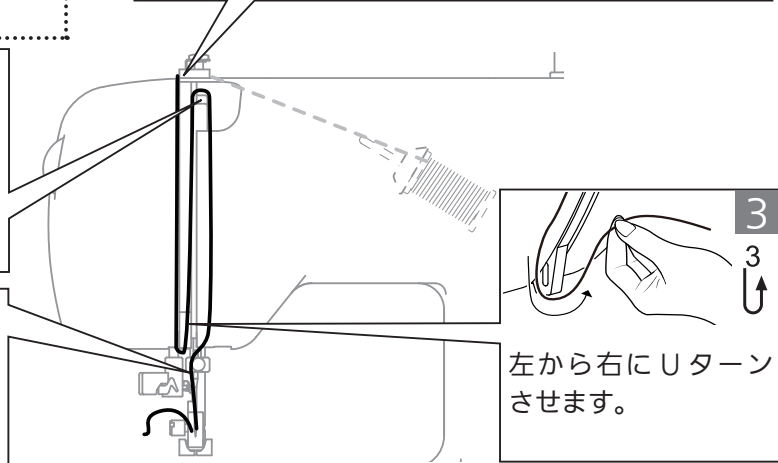
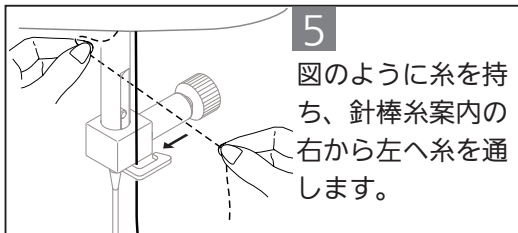
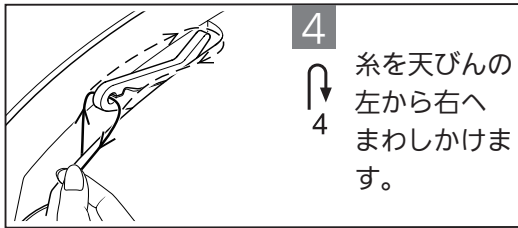
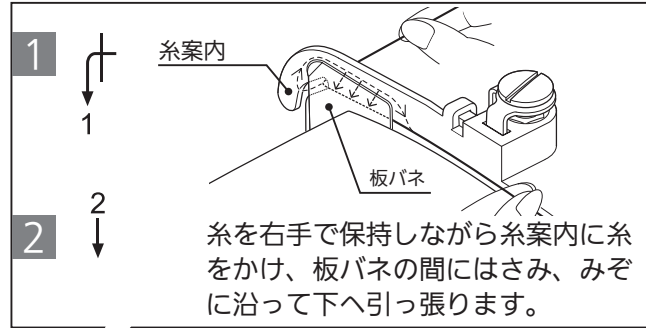


必ず押え上げを上げます。
(押え上げを上げないと、
糸調子がとれません)

プーリーを手前に回し、天びん
を最上点へ上げておきます。
糸ごまと糸ごま押えをセットし
ます。

Ⅱ. 上糸をかけます

図の順番に糸をかけます。



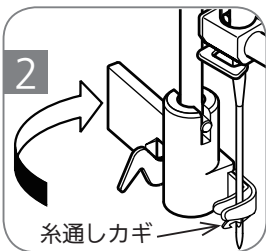
※ 針には、自動糸通し器を使用して糸を通します。
次項の【Ⅲ. 自動糸通し器の使いかた】を参照ください。

III. 自動糸通し器の使いかた

糸通しの前に押え上げを上げ、プーリーを手前に回して、針を最上点に上げます。

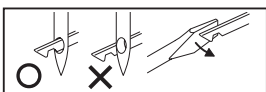


糸通しレバーをいちばん下まで下げます。



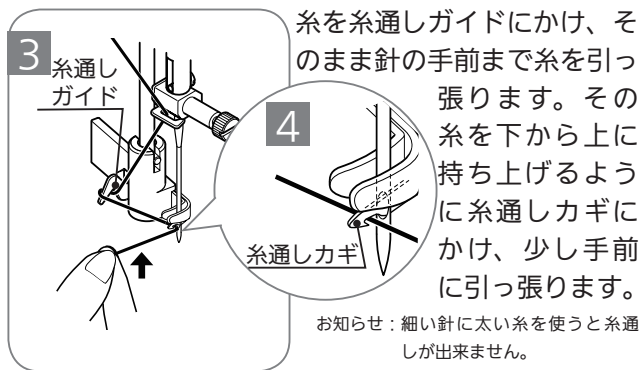
図のように糸通しカギが針穴に入る方向に回転させてください。

お知らせ：針が最上点にないと、糸通しレバーは回転しません。



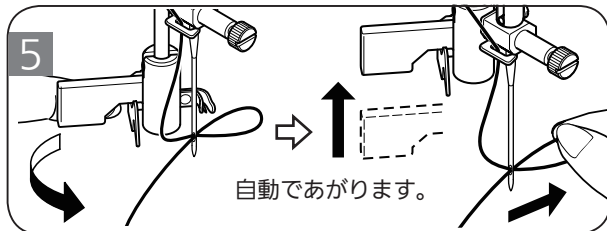
お役立ち情報 糸通しカギが針穴からそれている場合は、小さなネジ回しで糸通しカギが針穴に入るよう、糸通しカギの位置を調整してください。

 注意	ミシンが動いているときは糸通しレバーを下げてしないでください。故障だけでなく、針が折れ、ケガの原因になります。
---------------	---



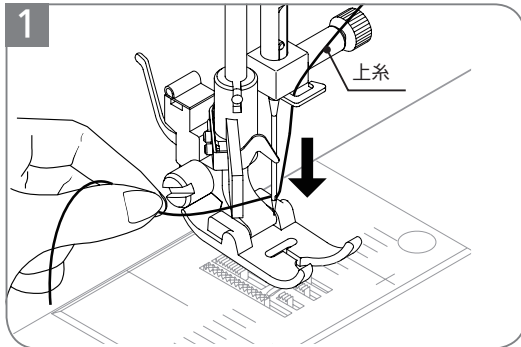
糸を糸通しガイドにかけ、そのまま針の手前まで糸を引っ張ります。その糸を下から上に持ち上げるように糸通しカギにかけ、少し手前に引っ張ります。

お知らせ：細い針に太い糸を使うと糸通しが出来ません。

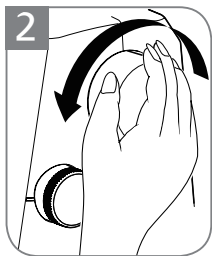


糸通しレバーを後方から前に軽く引くと、糸が針穴後方に輪になって通りますので、輪になった糸を針の後ろ側へ引き出してください。

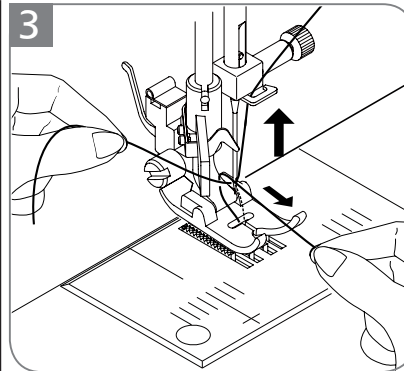
下糸を引き上げましょう



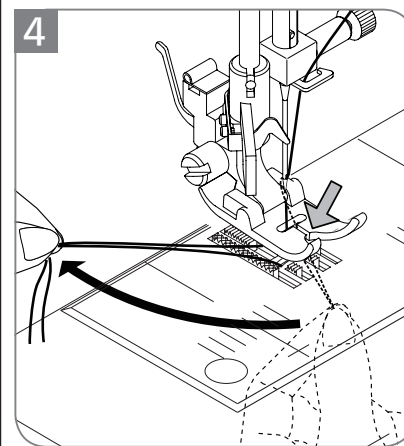
押え上げを上げてください。
上糸をゆったりと左手で持ってください。



プーリーを手前に完全に一回
転させてください。



左手の上糸を軽く引っ張り上げると、下糸がついて上がります。下糸を右手で手前に引き出してください。



両糸をそろえて押えのみぞ(矢印)に入れ、押えの下を通して後ろへ引き、糸を10cmほど残しておいてください。

針と糸と布の使いかた

- HA × 1 家庭用ミシン針を使用してください。
- 布地に適した針と糸を使用してください。
- 上糸と下糸は通常同じ種類の糸を使います。
- 曲がった針や先の丸くすりへった針は使用しないでください。
- 縫いにくい布地の縫いかたは 17 ページを参照ください。

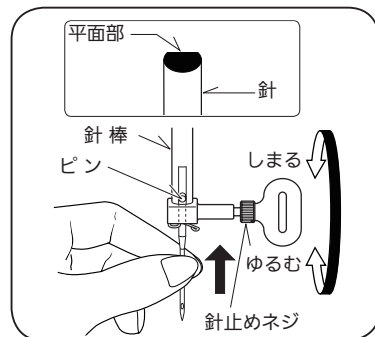
(糸は番手が大きいほど細く、針は番手が大きいほど太くなります。)

布 地		糸		針
		種類	番手	
薄 地	サテン、ジョーゼット、オーガンジー、ガーゼなど アドバイス：縫いしわを防止するには縫い目ピッチ 2～3 ミリをおすすめします。	化繊糸(シャツペスパン)	90 番	9～11 番
		カタン糸(木綿糸)		
		絹糸		
普通地	ブロード、キャラコ、シーチング、フランなど アドバイス：穴のあいているレースを縫う場合、布の下に紙を敷いてください。	化繊糸(シャツペスパン)	50～90 番	9～14 番
		カタン糸(木綿糸)		
		絹糸		
厚 地	レーヨンなどのカーテン地、デニム、タオル、コーデュロイなど	化繊糸(シャツペスパン)	30 番 ※20 番などの太い糸の使用は控えてください	16 番
		カタン糸(木綿糸)	50～60 番	
		絹糸		
伸縮性のある生地	ジャージー、トリコット、メリヤス、ニット地など	ニット用糸	50～90 番	9～14 番 ※ニット針の使用をおすすめします
		化繊糸(シャツペスパン)		
		絹糸		

※ ナイロン透明糸を使用される場合、糸の太さ / 布の種類に関係なく、針の太さは 14 番～16 番をおすすめします。

アドバイス：針は太め、上糸圧力は弱めにし、下糸は少なめに巻いてください。

針の取りかえ



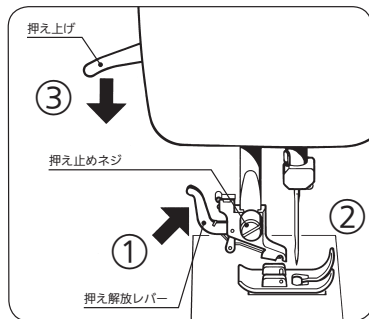
1. プーリーを手前に回し、針棒を最上点に上げます。
2. 針止めネジを付属の針板用ネジ回しでゆるめ、針を外します。
3. 新しい針の柄の平らな面を向こう側に向けて持ち、針が針棒のピンに当たるまで差し込みます。
4. 付属の針板用ネジ回しで針止めネジをかたくしめます。



注意

必ず電源・スピード切替スイッチを“とまる”の位置にセットしてください。

押えの取りかえ



注意

押えを取りかえるときは、必ず電源・スピード切替スイッチを“とまる”の位置にしてから行ってください。

押えと針を上げます。

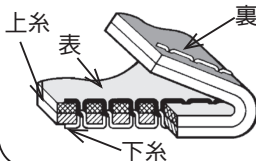
- ① 押え解放レバーを矢印の方向へ押し、押えが外れます。
- ② 針板と押えの針穴が合うように新しい押えを針板の上に置きます。
- ③ 押え上げを下げると押えがセットされます。入りにくいときは、押え解放レバーを押すと入ります。



押え止めネジを外さなくても押えは取り外し出来ます。どの押えもこの要領で簡単に取り外し、または取り付け出来ます。セット完了後必ず押え上げを上げ、きちんと取り付けられているか確認してください。

上糸調子のとりかた

直線縫いの正しい糸調子

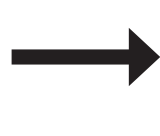


直線縫いの場合、上糸は布表側と布裏側で下糸とバランスよくからみあう状態に調整します。

上糸が強い

布の表に
下糸が出る

上糸調子を
弱めます

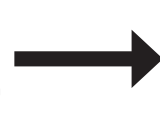


上糸の強さ

上糸が弱い

布の裏に
上糸が出る

上糸調子を
強めます



上糸の強さ

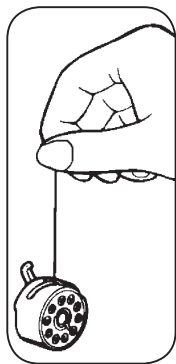
※ 上糸調子ダイヤルの数字が大きくなるほど上糸調子は強くなります。(通常は5の位置が適当です。)

上糸調子を調節しても糸調子が変わらない場合は、ボビンのセットもしくは下糸の調子が原因の場合があります。

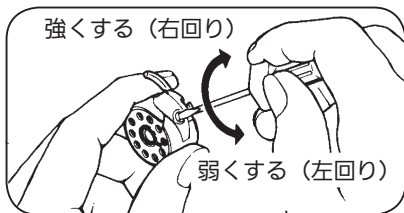
※ ボビンのセットは10ページを参照ください。

※ 下糸の調子のとりかたは16ページを参照ください。

下糸調子のとりかた

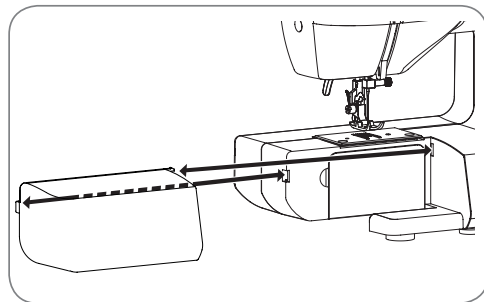


通常ボビンケースの下糸調子は調整の必要はありませんが、糸調子が正常かどうか確認する場合は、調子バネの下に糸（綿50番）を通し、上下に軽く振って少しずつくり出すか試してください。

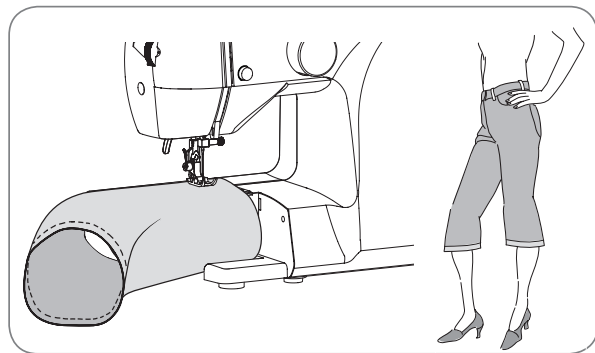


調整を必要とする場合は、調整ネジを少しずつ（1 / 4 回転以内）回してください。

筒状になった部分を縫うには



補助テーブルを外して、フリーアームにします。フリーアームに筒型になった部分を入れて縫います。袖つけ、袖口の始末、カフスつけ、衿つけ、ズボンの裾口の始末に便利です。



縫いにくい布地の縫いかた

※ 針と糸と布の使いかたは 14 ページを参照ください。

段縫い

- ・ 布送りがスムーズでない場合、手で布の送りを助けながら縫います。
- ・ 重なった厚地の布を縫う場合は、図①の状態でもシンを止め、針を下げます。図②のように同じ厚さの布地または厚紙を押えの下に敷いて縫います。布送りがスムーズになり、目とびも防げます。

薄地（レース地、薄物布）

レース地や薄い布の場合、細い針（#9・#11）とそれに適した糸を使用します。

お知らせ：

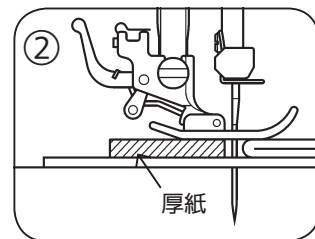
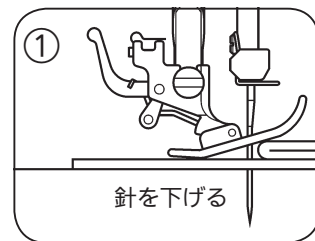
- ・ 布地によっては、布の下に薄い紙（半紙、ハترون紙など）を敷くと目とびや縫いしわを防ぐことができます。
- ・ 薄物の縫い始めは、上糸と下糸の端を少し引っ張りながら縫います。
- ・ 縫い目長さは“こまかく”してください。

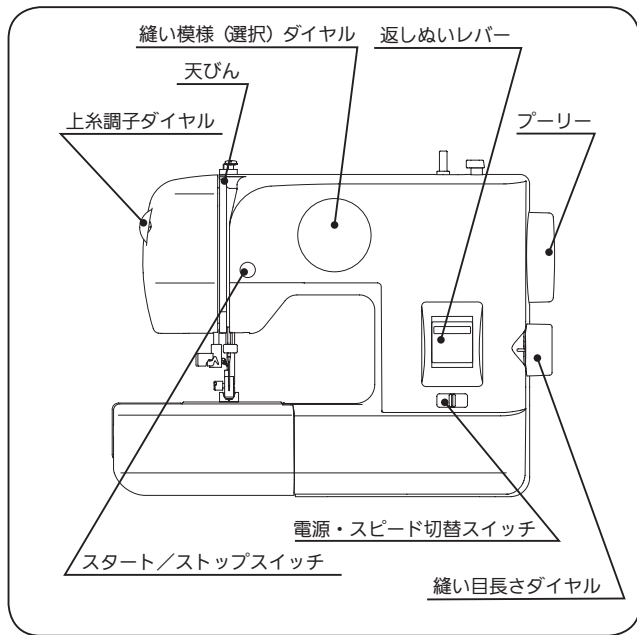
厚地（タオル地）

タオル地を縫う際は、太い針（#16）を使用し、縫い目長さはあらく、ゆっくりとしたスピードで縫います。

お知らせ：

- ・ 布地によっては、布の下に薄い紙（半紙、ハترون紙など）を敷いてください。
- ・ 縫い目長さは“あらく”してください。





このミシンは左基線を採用しています。左基線とは、直線縫いのときに、針の落ちる位置が針板、針穴の左にあることをいい、特に、端縫いに便利な基線といえます。

ヒント

針基線位置

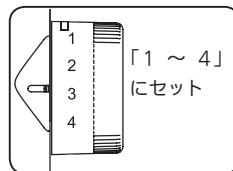
直線縫い

直線縫いはミシン縫いの基本です。試し縫いをして正しい使いかたをよく覚えましょう。

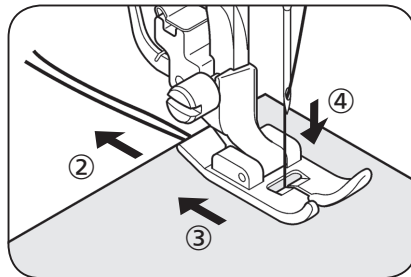
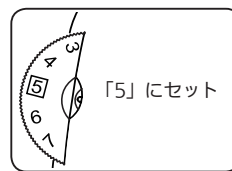
① ミシンのセット

プーリーを手前に回して、針を最上点に上げます。

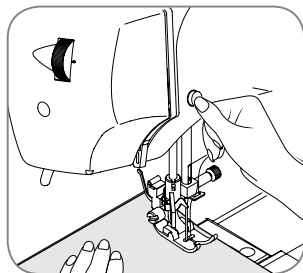
縫い目長さダイヤル



上糸調子ダイヤル

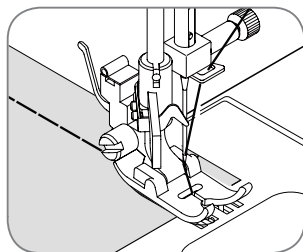


- ② 上糸と下糸をそろえて押えの下から向こう側へ10cmほど引き出します。
- ③ 布を押えの下に入れ、押えを下げます。
- ④ プーリーを手前に回して、針を布に落とします。

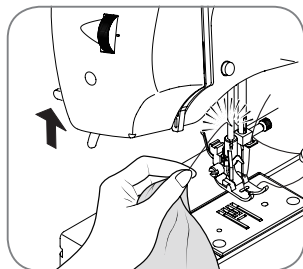


⑤ 電源・スピード切替スイッチを「おそい」または「はやい」に入れます。スタート/ストップスイッチを押して縫い始めます。縫っている間は、ミシンの布送りに合わせて、軽く手で布を導いてください。

お知らせ：布端を縫う場合は、上糸と下糸を後方へ少し引っ張りながら縫い始めます。

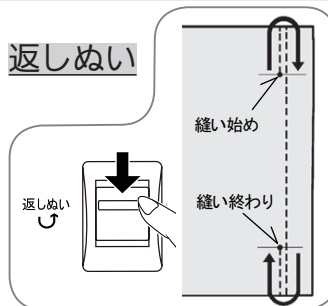


⑥ 布端まで来たら、スタート/ストップスイッチをもう一度押してミシンを止め、電源・スピード切替スイッチを「とまる」の位置にセットして電源を切ります。



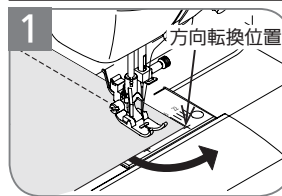
⑦ 縫い終わったら、針と押えを上げ、布地を後ろへ引き出し、押え棒に付いている糸切りで糸を切ります。切った糸は、そろえて後ろへ引いておきます。

返しぬい

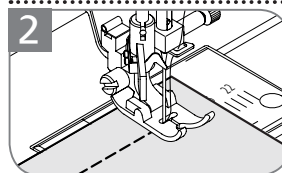


縫い始めと縫い終わりに3～5針返しぬいをしておきますと、縫い目がほころびにくくなり、丈夫になります。作動中に返しぬいレバーを押し下げますと、返しぬいが出来ます。

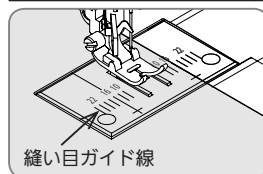
縫い方向の変えかた (布端から16mmで縫う場合)



1 布の角が針板上の「方向転換位置」に来たらミシンを止めます。次に、プーリーを手前に回して針を布に落とし、押えを上げます。



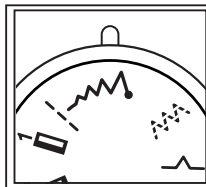
2 布地を回し、布の下端を16mmの線に合わせます。押えを下げ、再び縫い始めます。



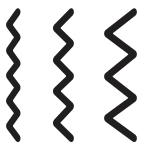
縫い目をまっすぐに縫うには

布地の端を希望の縫い目ガイド線 (mm 表示) に合わせて縫ってください。

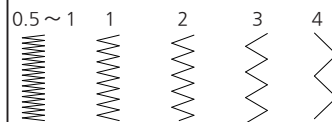
ジグザグ縫い



縫い模様 (選択) ダイアル

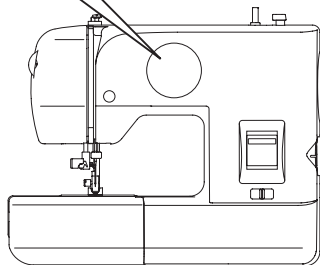
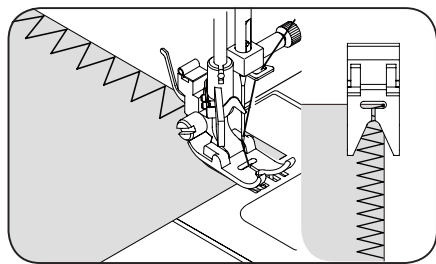


縫い目長さダイアル



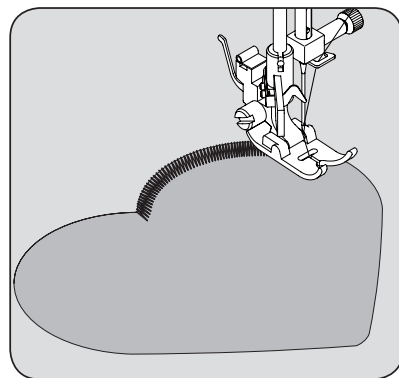
裁ち目かがり

布端に針が落ちるように縫います。



アップリケ

お好みの形の布やフェルトなどを土台となる布の上に乗せ、うすくのりづけするかしつけでとめ、布端より少し外側へ針を落として縫ってください。



点線ジグザグ縫い

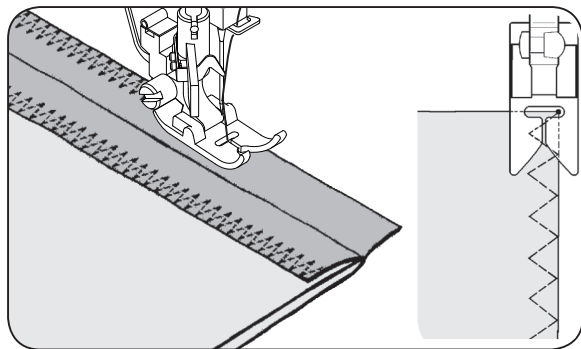
(必ず標準押えを
ご使用ください。)

裁ち目かがり

縫い模様 (選択) ダイアル



点線ジグザグ縫い
縫い目長さダイヤル：3～4



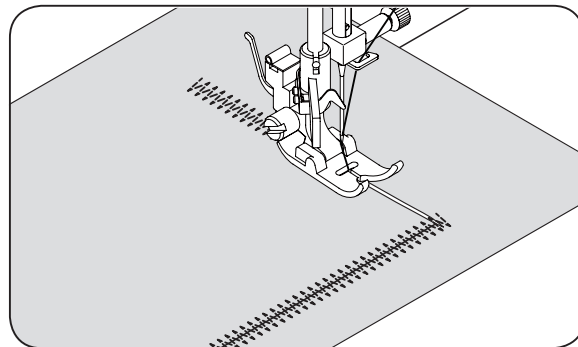
点線ジグザグ縫いは、ジグザグ縫いが一針で縫うところを三針で縫いますので、丈夫に縫え、伸縮性があります。様々な種類の布の裁ち目かがりに使えます。

つくろい縫い

縫い模様 (選択) ダイアル



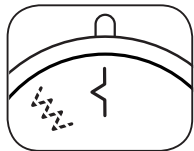
点線ジグザグ縫い
縫い目長さダイヤル：1～2



布の裂け目をつくろうには、裂け目を針の下に置き、針が裂け目の両側を拾うように縫います。裂け目の角は両側から角の中心に向かって縫います。裂け目の下に布をあてて縫うと丈夫につくろえます。

かくし縫い (ブラインドステッチ) <

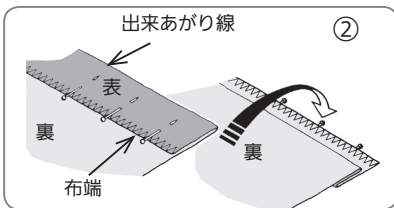
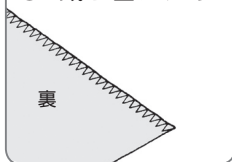
縫い目模様 (選択) ダイアル



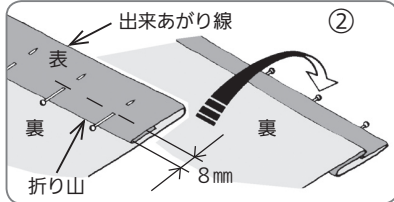
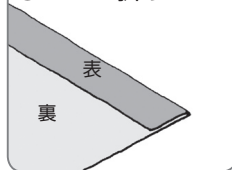
かくし縫い (ブラインドステッチ)

電源・スピード切替スイッチ「おそい」

① 裁ち目かがり

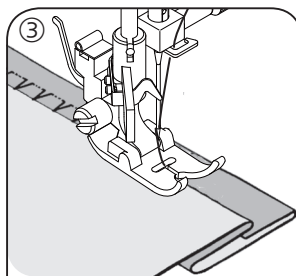


① 二つ折り

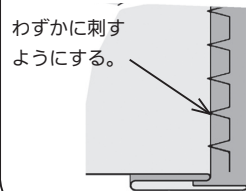


① 布端を裁ち目かがりするか、二つ折りにします。

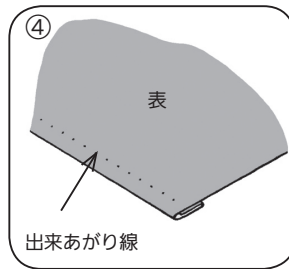
② 出来あがり線に沿って布を折り、折り山から約8mm入ったところから裾に向かって、図のように待ち針で留めます。待ち針を持って折り返します。



③ プーリーを手前に回し、針が左に振れたとき、針が折り山をわずかに刺す位置に落ちるか確認してから縫いはじめます。待ち針は押えの手前に来たら順に抜いていきます。



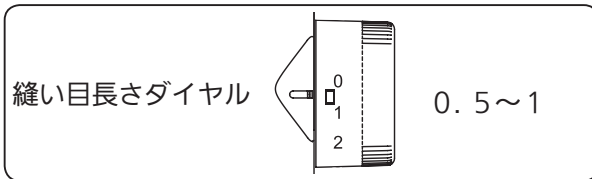
わずかに刺すようにする。



④ 布を表に開くと出来あがりです。

ボタンホール (ボタン穴かがり)

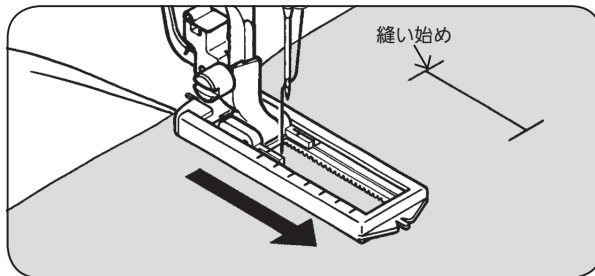
縫い始めのセット



- ボタンホール押えをセットし、押えを手前にいっぱい引っ張り出し、縫い始めの位置に合わせて押えを下げます。

お知らせ：

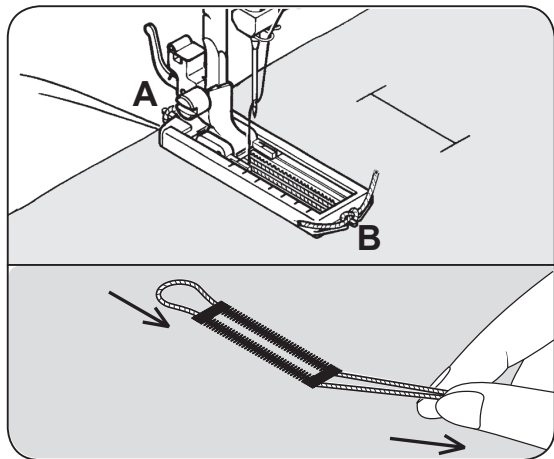
- 伸縮性のある布地や薄地で、進みにくい場合は、布地の下に不織布の接着芯を貼ってください。
- 使用される布切れで試し縫いをされることをおすすめします。



縫いかた

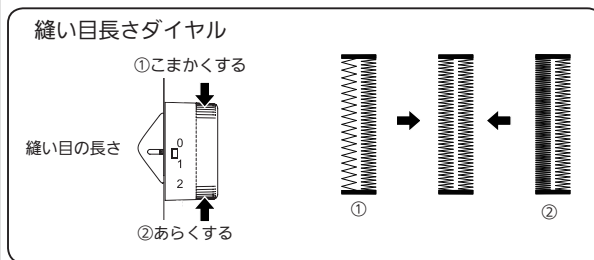
1		矢印の方向へ必要な長さだけ縫ってください。
2・4		左右に4~5針縫ってください。
3		自動的にバック縫いしますので、縫い始めの線まで縫ってください。
2・4		左右に4~5針縫ってください。
		縫い終わったらシームリッパーで中央の布地を切り開きます。その際縫い糸を切らないように注意してください。

芯糸入りボタンホール



- ・ 芯糸を入れて縫うと、ボタン穴の伸びを防ぎ、強いボタン穴が出来ます。芯糸にはレース糸または、穴糸を使います。
- ① 芯糸をボタンホール押えの後ろの突起(A)に引っかけて、押えの下を通して前の突起(B)に結び付けます。このまま押えを取り付けて穴かがりすると、芯糸入りのボタンホールが出来ます。
- ② 縫い終わったら芯糸を押えから外し、糸の端を引いてたるみをなくし、余分な糸を切り取ります。

ボタンホールの縫い目長さ調整

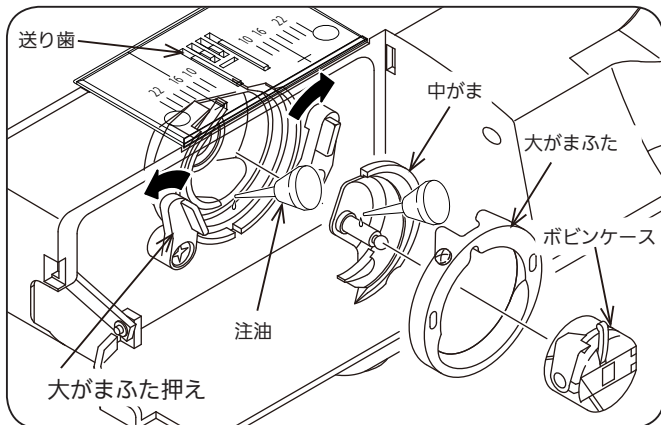


縫い目長さダイヤルは「0」の位置で後進縫い「1」の縫い目長さとはなっていますが、合わない場合は縫い目長さダイヤルで微調整してください。

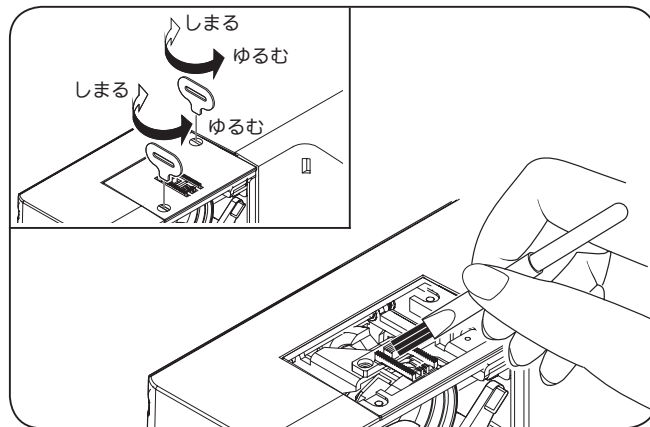
送り歯とかまの掃除

針を最上点に上げます。

補助テーブルを外し、かまカバーを開けます。



1. ボビンケースをかまから外します。
2. 大がまふた押えを左右に開きます。
3. 大がまふたと中がまを外します。
4. 送り歯やかまのまわりをブラシで掃除してください。ミシン油をイラスト指示部分に1～2滴注油しておいてください。
(注油が多すぎると糸がらみの原因となります)
5. 掃除が終わったら、外しかたと逆の順序でセットし、大がまふた押えが「カチッ」と音がするまで、完全に戻してください。



かまに糸がからんだ場合は、次の順序で行ってください。

- まず、かまの掃除手順 1.2. を行ってください。
1. 大がまふたを外します。
 2. ボビンケース・中がまに巻きついた糸をハサミ等で取り除きます。
 3. 大がまの内側に糸が残っていないか確かめます。
 4. 針が曲がっていないか確かめます。(曲がっている場合は新しい針に交換してください)
 5. 終わりましたら、掃除のときの外しかたと逆の順序でセットします。



注意

安全のために必ず電源・スピード切替スイッチを“とまる”の位置にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガの原因になります。

ミシンの調子が悪いとき、次の原因を確かめましょう

こんなときには	原因	対処	参照ページ
ミシンが回らない	下糸巻き軸が右になっている。	下糸巻き軸を左へ押しませう。	9
	電源コードが正しくセットされていない。	正しくセットし直します。	7
	電源・スピード切替スイッチが“とまる”の位置にある。	スイッチを“おそい”または“はいい”の位置にセットします。	6
	ポビンケースが正しい位置にない。	ポビンケースを正しい位置にセットします。	10
回転が重い 音が高い	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	25
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	14
布を送らない	押えを下ろしていない。	押え上げを下ろして、押えを下げます。	—
	縫い目長さダイヤルが“0”の位置にある。	ダイヤルを“1～4”に合わせます。	18
	厚物縫いの場合		17
針が折れる、 針が曲がっている	無理に布を引っ張った。	布は軽く案内するだけにしてください。	—
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	14
	針が針棒のいちばん奥まで入っていない、差し込む向きが逆になっている。	正しくつけ直します。	14
	押えが正しく取り付けられていない。	正しくつけ直します。	—
	段縫いの場合		17
糸が布と針板の間 でだんごになる	ポビンケースが正しい位置にない。	ポビンケースを正しい位置にセットします。	10
	縫い始めに上糸と下糸を向こう側に引き出していない。	常に両糸をそろえて押えの下から向こう側へ10 cmほど引き出します。	13
	上糸のかけかたが間違っている。	正しくかけ直します。	11
	上糸調子が適切でない。	上糸調子の確認をします。	15
縫い物にしわがよ る	糸調子が強すぎる。	糸調子を弱めます。	15
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	14
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	14
	薄地に対して縫い目があらい。	縫い目をこまかくします。	—
	下糸の調子が弱い。	下糸の調子を強めます。	16
薄物縫いの場合		17	
かまに上糸・下糸 がからまる	上糸がきちんとかかっていない・糸調子が適切でない。	上糸をかけなおし、糸調子の確認をします。	11
	押えを下ろしていない。	押えを下げます。	—
	薄物縫いの場合		17
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	14
	ポビンケースへの糸の通しかたが間違っている。	正しくセットし直します。	10
上糸がつる	糸くずやごみがかまにたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	25
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	15
	上糸のかけかたが間違っている。	正しくかけ直します。	11
	ポビンが正しくセットされていない。	ポビンケースへの糸通しを正しくセットします。	10
下糸が切れる	ポビンケースへの糸の通しかたが間違っている。	正しくセットし直します。	10
	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	25

ミシンの調子が悪いとき、
次の原因を確かめましょう

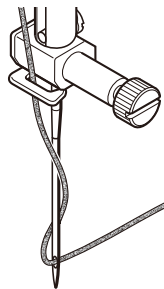
5

こんなときには	原因	対処	参照ページ
上糸が切れる	上糸のかけかたが間違っている。	正しくかけ直します。	11
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	15
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	14
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	14
	よじれの起こりやすい糸を使っている。	下図のように針に糸を巻きつけることをおすすめします。	下図参照
縫い目かとぶ	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	14
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	14
	針が針棒のいちばん奥まで入っていない、差し込む向きが逆になっている。	正しくつけ直します。	14
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	15
	上糸のかけかたが間違っている。	正しくかけ直します。	11
	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	25
	縫いにくい布地の場合		17
よじれの起こりやすい糸を使っている。	下図のように針に糸を巻きつけることをおすすめします。	下図参照	

市販の糸にはよじれの起こりやすい糸があり、目とび／糸切れなどが発生することがあります。

このような場合、図のように針に糸を巻きつけることをおすすめします。

ご注意：図とは反対に巻きつけないようにしてください。
糸のよじれがかえって増すこととなります。



◆ 修理・部品のご注文は、お買い上げの販売店にご相談ください。◆

保証書について

保証書の内容をよくお読み頂き、大切に保管してください。

ご購入の際、メーカー保証書、販売店発行の専用保証書、
または納品書にお買い上げ日の記載があるかご確認ください。
無料修理の保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
修理については、お買い上げの販売店、または下記のご相談窓口へお問い合わせください。

ご相談・修理について

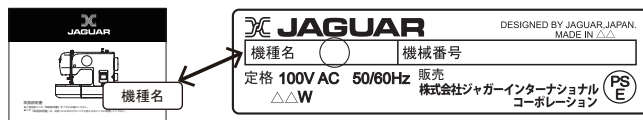
ご相談頂く前に下記の「ミシンの調子が悪いとき」や「よくある質問」をご確認ください。

ジャガーミシンホームページ内の「よくある質問」・【URL】<http://www.jaguar-net.co.jp/>
取扱説明書の26～27ページ「ミシンの調子が悪いとき」も、ご参照ください。

それでも解決しない場合

お問い合わせ頂く前に以下のことをご確認ください。

- 1 機種名** ・ ・ 事前にご確認頂きますと、スムーズにご案内することが出来ます。
(取扱説明書の表紙、ミシン本体背面の銀色の機番プレートをご覧ください。)



- 2 保証書** ・ ・ お買い上げ日、販売店名など記載された保証書をご用意ください。

メールでのお問い合わせ ・ ・ 下記のいずれかで、お問い合わせ頂けます。

【ジャガーミシンホームページ】お客様サポート ➡ ✉ お問い合わせフォームから
【メールアドレス】info@jaguar-net.co.jp

お電話でのお問い合わせ

【ご相談窓口専用フリーダイヤル】☎ 0120-00-1137
【営業時間】平日 9:00～17:00 【休業日】土曜・日曜・祝日及び夏期・年末年始

部品注文について

ホームページ・メールまたはフリーダイヤルからご注文頂けます。

◆ ジャガーマシンホームページ

【URL】 <http://www.jaguar-net.co.jp/>

◆ 電話注文

・・・上記のご相談窓口へお問い合わせ後、以下の手順でお振込ください。

1 ゆうちょ銀行窓口へ備え付けの、青枠の『払込取扱票』をご使用ください。

2 ①～④までの必要事項を記載の上、窓口にてお支払いください。

- ① 口座番号・・・00930-6-153569
- ② 口座名義・・・ジャガーインターナショナル
- ③ 通信欄・・・ミシンの機種名・注文部品名
- ④ お客様ご住所（アパート・マンション名まで）・お名前・お電話番号

※ 恐れ入りますが振込手数料はお客様負担となります。ご理解賜りますよう、お願い致します。

◆ ジャガー公式販売サイト

・・・ジャガーソーイングストアからも部品注文は可能です。

【URL】 <http://www.jaguarstore.jp/>

ジャガーソーイングストア

検索



株式会社ジャガーインターナショナルコーポレーション

〒570-0011 大阪府守口市金田町2丁目55番32号

ご相談窓口専用フリーダイヤル 0120-00-1137

電話 06-6900-1963

FAX 06-6900-1966

E-mail info@jaguar-net.co.jp

ホームページ <http://www.jaguar-net.co.jp/>

公式販売サイト（ジャガーソーイングストア） <http://www.jaguarstore.jp/>